

プレゼンテーション

プレゼンテーションは、自らの学びを他者に伝えるために、調べたり組み立てたりするプロセスや、実際にプレゼンテーションを行う際の態度に注目されがちではないでしょうか。しかしプレゼンテーションを行った後に教員や学生からのフィードバックを受けることで、自分の学びを再度見つめ直すことも大切です。

「終わって良かった」で終わらせるのではなく、「修正すべきことはないか？」「次のプレゼンテーションではどうすべきか？」と気づきを促すには、教員はどのように授業を設計していけば良いのでしょうか。

科目名：生命と化学

担当者：飯郷雅之 先生（農学部）

履修者数は38名で、4週に分けて1人ずつ全体の前でプレゼンテーションを行います。終了後、プレゼンテーションの内容や資料の作り方、発表中の態度に対して、他の学生や教員からコメントを伝えます。

「誰か質問や感想はありますか？」と学生に呼びかけてもなかなか手が挙がらないものです。この授業ではあらかじめコメントする学生は毎回指名してありますのでスムーズにやり取りが行われます。

また、その他の学生も「評価表」に点数（1～5点）とコメントを記入することになっていますので、積極的にプレゼンテーションを聞くことができます。評価表は最終的に本人に渡されますので、自分の学びを再度見つめ直す為の素材として提供されます。